



2023 年度
第 51 号

体育市民連帯 ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけませんか？

国家代表海兵隊訓練は
深刻な人権侵害
市民団体
人権委陳情



過去に
逆走する
韓国スポーツ



韓国スポーツ
パラダイムから
変えなければ
ならない



「赤いほっぺ」の
お姉さんたち
キム・ヨンギョンより
上手でした



小学校 1・2 年の
体育独立編成・・・
「国民運動量」
増やす



01 MBC 2023. 12. 21

「国家代表海兵隊訓練は深刻な人権侵害」市民団体人権委陳情



国家代表選手たちが海兵隊の克己訓練を受けた状況について市民団体が「選手たちに対する人権侵害」として国家人権委員会に陳情書を提出しました。

民主社会のための弁護士会、文化芸術スポーツ委員会と文化連帯など4団体は今日午前、国家人権委前で記者会見を開き、大韓体育会が国家代表選手を相手に海兵隊の克己訓練を行ったことが人権侵害だと糾弾しました。

これに先立ち大韓体育会は今年18日から3日間、国家代表選手団の精神力強化を名目に海兵隊キャンプ訓練を行いました。

市民団体はこれについて、「選手に対する強制的な克己訓練は深刻な人権侵害と規定されなければならない」とし、「競技力が期待に及ばなかったからといって懲罰的な訓練を強要することはできない」としました。

それと共に「訓練は科学的データに基づかなければならないにもかかわらず、大韓体育会長1人の判断による画一的な訓練で競技力低下をもたらすこともありうる」と主張しました。

彼らは会見を終え、「国家代表選手と指導者がいわゆる精神力強化という目的で海兵隊に選抜され、人権侵害を受けた」とし、「大韓体育会とイ・ギフン会長は選手の人権を保護する責任を放棄し、反人権的訓練を実行した」という内容の陳情書を人権委に提出しました。

出展：https://imnews.imbc.com/news/2023/society/article/6555471_36126.html

02 毎日労働ニュース 023. 12. 26 チョン・ユンス (スポーツ評論家、聖公会大学文化大学院教授)
過去に逆走する韓国スポーツ

10月に「2022 杭州アジア大会」を終える時から始まったことだ。韓国選手団は金メダル30個、銀メダル33個、銅メダル40個で4位を占めた。4位とはいえメダルの数字もそうだし、他国との格差や種目別達成度などを考えると下落傾向にある。総合16位を占めた2021年東京五輪と今年のアジア大会を世界各国の上向き平準化と関連付けてみると、2024年

パリ五輪で韓国は20位圏前後になるだろうという予測だ。

イ・ギフン大韓体育会長は杭州アジア大会が終わった後に行った記者会見場で「私たちの方式に安住せず、新しく変化する訓練方式、システムに重点を置いて海外事例、特に競争国の訓練システムなどを精密に分析し対応する」と話した。ここまでは同意する。

ところが「海兵隊訓練」の話が出た。イ・ギフン会長は、「国家代表選手たちが入村する前に、2泊3日の海兵隊訓練を行う計画だ。私も一緒に参加する」と付け加えた。そしてアジア大会が終わって2ヶ月ほど経った後に「精密で分析し対応」と言った大韓体育会の活動の中で目に目立ったのは、まだ海兵隊訓練だけだ。

国家代表に海兵隊訓練とは

海兵隊訓練は優れた技量の国家代表級選手たちに効果があるのか。断言するが全くない。性別・年齢別・種目別身体的特性が非常に多様であるだけでなく、きわめて繊細な次元でトレーニングする高度の代表級選手たちに海兵隊訓練は身体的側面でむしろ逆効果だ。柔軟性とリズム感が欠かせない水泳や体操選手たちに敵を奇襲して強靱に撲滅することで構成された海兵隊訓練がどんな役に立つだろうか。

では、精神力の強化は？ これも無理がある。精神力強化という言葉自体に語弊がある。国家代表級の選手といえば、その種目において国内ではもちろん、世界レベルで自分の心理状態をコントロールしなければならない。国家レベルでは国民体育振興公団傘下の韓国スポーツ政策科学院が厳然と存在し、鎮川選手村はもちろん、所属チームや学校で先端のスポーツ科学と心理・相談・コーチングなどが行われる。もちろん、このすべての機関と施設とプログラムもやはりその何かを「強化」する方向だけで設計されたのではないかという観点から精密な検討が必要だ。しかし、いずれにせよ、このすべての「科学的」機関と施設と装備と専門家とプログラムを抜いて海兵隊訓練に参加するということは、大韓体育会と関連したスポーツ専門機関と専門家を無視する処置だ。

高難度の軍事訓練過程を適切に模倣して再構成したプログラムで「精神力の緩み」とか「うまくできますか」と言えば「うまくできます」と復唱する場面は、50年前の20世紀半ばの途上国の状態を思い出させる。正確に言えば、その時代にもそれが実質的な効果があったからではなく、そのような方式ではなく先進的で科学的な施設やプログラムがなかったため、「精神力強化」一辺倒にするしかなかっただけだ。

実際、杭州アジア大会が開かれる前に、すでに古くて陳腐で荒い措置が施行された。張ジェグン国家代表選手村長は、選手たちの「解離した精神」を正すという趣旨で、これまで強圧的であるだけでなく身体訓練にも効果もなかった夜明けの山岳区歩を復活させ、外出や外泊を厳しく統制し、ついに深夜時間帯の携帯電話の使用を禁止する措置まで下した。海兵隊訓練キャンプに入所する前から代表選手たちは軍人のように厳格な「内部班」生活をしていた。しかし、4位に止まったら、もうそうすべきではなかったのに、海兵隊訓練まで強制したのだ。

ゴールシュート女シンドロームを見よ

このようなやり方では困る。今、世界は多様化し、多様化した。最上位概念である「国家」が政治・外交・軍事・経済的次元では強力に作動するが、気候・環境・文化・日常・スポーツ・余暇などでは国家の「強力なグリップ」はむしろ妨害になる。個別都市と自由な市民の活発な交流と連帯が地球のあちこちで展開されるためだ。気候危機・人口減少・労働と雇用形態変化などで20世紀の政治・経済・社会パラダイムが変わっている。スポーツの範疇とその価値も急変し、指導者と選手という骨組みに加え、スポーツと関連したメディア・コンテンツ・産業・経営・法律・企画などの職業が拡張されている。

先月19日、釜山で開かれたeスポーツ界のW杯「2023リーグ・オブ・レジェンド (LoL) ワールドチャンピオンシップ」を見てみよう。オンライン累積視聴者数がなんと4億人だ。ソウル光化門広場には1万5千人余りの観衆が集まって応援戦を繰り広げ、決勝チケットは10分で売り切れた。もちろん、この種目はアジア大会の正式種目でもある。

欲望と価値の側面を見てみよう。いわゆる「ゴールシュート女シンドローム」SBS サッカー芸能番組「ゴールシュートを打つ彼女たち」によって女子サッカー同好会が急増し、フットサル競技場、用品、各種大会が全国的に広がった。大韓体育会と大韓サッカー協会が女子サッカー活性化のためにそれなりに努力したが、ほとんどが20世紀方式だった。反面、「ゴールシュート女」の核心はサッカーをする瞬間の歓喜と数多くの同僚たちとの「深い友情」だ。すると、多くの女性がサッカーシューズを履き始めた。このプログラムは2023年8月1日、文化体育観光部から「今年の両性平等文化コンテンツ賞」まで受賞した。

さらにマクロ的に見れば国際オリンピック委員会(IOC)はすでに「オリンピックアジェンダ2020」を通じて資源共有と社会的価値の共存を通じてスポーツが人類が直面した各種危機をどのように解決すべきかを提示した。スポーツが「数多くの社会関係と結束して持続可能性」を模索しなければならず、気候・環境・紛争・貧困・嫌悪・差別・選手保護などに積極的に乗り出さなければならぬと力説した。そしてすでにそのようなプログラムが世界レベルで展開され、そのような活動はオリンピック大会を通じて確認され拡散される。

とりわけ、韓国だけが例外だ。気候危機や嫌悪・差別・紛争の克服は重要な課題に設定されない。選手の身体・人権・資格の保護と身長はむしろ20世紀中頃に逆行する。携帯電話の使用を禁止し、軍事訓練キャンプに行き「精神武装」しろと強制する。IOCから制裁を受けなければならないことだ。

出展：<https://www.labortoday.co.kr/news/articleView.html?idxno=218972>

03 イーデイリー 2023.12.23

韓国スポーツ、パラダイムから変えなければならない



韓国スポーツを支配するパラダイムは「エリート体育」だ。

成熟した木の木の葉にだけ投資をしてきた。運動する人とならない人は小学校から分離される。運動しない「一般人」たちに「運動」する人たちは異世界の人になった。「運動」する人々に一般人も見慣れない対象だ。

このようなシステムは古すぎる。エリートスポーツ育成政策は、朴正熙政権の時まで遡る。生活が苦しい時代、「大韓民国」という名を広めるための効果的な手段は国際スポーツ舞台での活躍だと考えた。これは「国威宣揚」という理由で大学入試から「体育」に対する制度的特典として現れた。

IMF 事態で多くのスポーツチームが解体され、危機に直面した。それでも韓国スポーツはエリート中心だった。五輪舞台での金メダルが重要だった。むしろ国際舞台で韓国スポーツの成績と地位も大きくなった。それだけエリートスポーツの効果は明確だった。

しかし、環境が変わりつつある。人口絶壁の危機が大きくなり、運動する人と運動しない人を分離すること自体に危機が訪れた。つまり、エリート中心の体育政策を維持できないほど意味がなくなるかもしれないということだ。

結局、根本的なパラダイム転換が必要だ。エリート体育中心からスポーツ底辺を拡大しなければならない。人生の中のスポーツ、スポーツを通じた人生が日常的でなければならない。このような点で、最近の政策的な動きは歓迎に値する。

最近、スポーツ基本法に基づく国家スポーツ政策委員会が活動を開始した。第1次会議では「第1次スポーツ振興基本計画（2024~2028年）」を発表した。学校・生活・エリート・国際スポーツ・スポーツ産業など分野別に政策を盛り込んだが、2028年までに国民の日常スポーツ参加率を70%まで引き上げるというのが目につく。運動参加実績を土台に支給される年5万ウォン限度の現金性ポイント支給対象は今年1万人から2028年50万人に増やす内容もある。生活スポーツの強化による底辺の拡大、ピラミッド型の構造を作るという骨子だ。

また、初等学校1、2年生の身体活動を増やすために別途の体育科目を編成するという政策も目立つ。未来世代の小学生たちの体力低下が深刻だからだ。これは単に体育、スポーツだけの問題ではなく、教育界とも綿密に議論する事案だ。

ただし、基本的な認識を変えることが重要である。依然としてスポーツ、運動は上手な人がしなければならないという認識のことだ。スポーツを通じた生活、生活の中のスポーツという雰囲気が形成されなければならない。

しかし、国家スポーツ政策委員会の構成から体育界と政府間の不協和音が感知される。大韓体育会は民官協同ガバナンス方式である国家スポーツ政策委員会が不満なようだ。イ・ギフン大韓体育会長は、当然職である国家スポーツ政策委員会委員の辞任書を提出し、会議に参加しなかった。

大韓体育会は民間委員の参加に否定的な立場を示してきた。体育界の完全な意思が伝わりにくいという理由からだ。しかし最近、文化体育観光部との気まずい関係のためだという観測が多い。

生活体育と統合してからかなり時間が経ったが、大韓体育会は依然としてエリートスポーツ強化の方に焦点を合わせているようだ。最近議論になっている国家代表海兵隊入所キャンプも同じ脈絡と言える。

上でも言及したが、人口絶壁の危機の中でエリートと生活体育の分離は意味がない。エリートスポーツを固守する現実の中で、韓国スポーツの「ガラパゴス化」だけが加速化するという指摘を重く受け止める必要がある。

スポーツを通じた健康な市民、健康な社会というパラダイムが定着するまでには時間がかかるだろう。早くする必要はないが、変わらなければならないのは正しい。体育界としては生存がかかっている問題だ。体育界でも変化の必要性を感じなければならない。

出展：<https://www.edaily.co.kr/news/read?newsId=01079126635841472&mediaCodeNo=258>

04 ハンギョレ 2023. 12. 22

「赤いほっぺ」のお姉さんたち 「キム・ヨンギョンより上手でした」



「膝！ひーざ！腕を伸ばして！肘をつけて！肘を伸ばして！」

毎週金曜日の正午を過ぎた時間になると、ソウル麻浦区の西江大学体育館では、3つの音が絶えず交互に聞こえた。浦項市体育会バレーボール団の金ユンへ（56）監督が投げたボールを受講生たちが受けて打つ音、金監督が受講生たちの姿勢を指導しながら喉が裂けるように叫ぶ声、そして受講

生が打ったボールが高く上がった後、床に落ちて「トン」と飛び上がる音。時折笑い声も加わった。ボ

ールを打つ番になった人が空振りした時だった。ボールをはずした人は後ろ向きになって照れ笑いを浮かべた。身長 176 センチの金監督は冗談を言ったり豪快に励ました。

「スポーツは誰もが享受すべき普遍的権利」

西江大学体育館では毎週金曜日の昼 12 時から約 40~50 分間、専門体育人と清掃労働者、大学生が皆で集まって運動する空間が開かれる。文化連帯代案体育会が 2022 年 11 月から開いた「ホホ体育館」プロジェクトだ。「みんなの運動」、すなわち性別・年齢・障害・身体能力などと関係なく皆がスポーツを楽しむ権利を実現するために始めた。

指導者経歴だけで 20 年目の金監督は、アジア選手権大会（1987 年）、第 24 回ソウル五輪（1988 年）で女子国家代表としてコートの上を走ったことのある専門指導者だ。受講生は金監督と年齢が似ている 50~60 代女性で、西江大清掃労働者だ。西江大学人権実践会「ノゴジリ（訳注：ヒバリの古語）」や校地、女子バスケットボールサークル所属の大学生もバレーボール授業に参加する。

国家人権委員会が制定したスポーツ人権憲章は「スポーツは人間誰もが享受しなければならない普遍的権利」と規定している。国際社会はかつて基本権としてスポーツ権を議論してきたが、依然として国内ではスポーツ政策や関連した社会的議論は専門スポーツ選手の領域に限定される傾向が強い。2019 年体育界の「MeToo」運動、2020 年トライアスロン（鉄人三種競技）のチェ・スクヒョン選手が集団過酷行為で死亡する事件が起きたことで出た政府対策と議論もやはりこの枠組みから抜け出せなかった。

文化連帯はホホ体育館を「運動(Exercise)で運動(Movement)する」の一環として企画した。「大韓民国スポーツ界に山積した人権問題を解決し、より多くの人々が完全にスポーツを享受できるようにするためには、より広い観点でスポーツを理解しなければならない」という趣旨だ。2022~2023 年は西江大学だけで運営したが、2024 年上半期には西江大学に続きソウル西部圏域の他の大学でもホホ体育館を開く計画だ。下半期には参加大学をさらに 2 校増やす計画だ。

2023 年 12 月 1 日正午が近づく頃、赤色の作業服の上に厚いダウンを着た受講生たちが三々五々体育館に集まった。一番先に到着したチェ・ソンウンさん（56）とイ・ヒャンランさん（59）はダウンジャケットを脱いでしばらくストレッチをした。「この前、壁に向かって（練習）しろと言った」二人のうち一人が言った。彼女らはそれぞれバレーボールのボールを持って体育館の片方の壁に近づいた。

1 週間前に開かれた授業で、キム・ユンへ監督は授業を終えて頼んだ。授業が始まる前に到着したら、壁にボールを打ちながらアンダーハンドトスの練習をしていると。この言葉を思い浮かべた二人は膝を少し曲げ、両腕を前に出してまっすぐ伸ばした姿勢を維持しながらボールを壁に当てて打った。その姿を見た他の清掃労働者たちと学生たちも各々ボールを持って「壁打ち」をした。

ヨガ授業、いいけど関係形成は難しい

授業が始まると、10 個以上のバレーボールが体育館の中を慌ただしく飛び回った。この日の授業参加者は計 11 人で清掃労働者 6 人、学生が 5 人だった。その他、文化連帯の活動家 1 人が授業を補助した。金監督はこの日、約 50 分間「膝」と「額」という単語を最も多く話した。アンダーハンドトスを練習する時は膝の高さから上にボールを打たなければならない、オーバーハンドトスをする時は額の上からボールを打たなければならないという意味だった。「額がここにありませんよね？」額の上より低い位置でボールを打った受講生に金監督が自身のあごの下を指差しながら冗談を言った。笑い声がよく聞こえることを願う気持ちでプロジェクト名に「ホホ」を付けた活動家の願いのように体育館内は笑いが絶えなかった。

今や韓国では運動する女性は珍しくない。一時、運動は男性の専有物のように思われていた。しかし最近では高強度ウェイトトレーニングを受けて割れた筋肉をボディープロフィール写真で表わす女性、柔道や柔術のように激しい格闘技を学ぶ女性、フットサル・バスケットボール・テニスなど団体スポーツを楽しむ女性が増えている。それでも「中年女性」と「バレーボール」という単語の組み合わせを思い浮かべるのは容易ではない。文化連帯が初めてパイロットプログラムで清掃労働者の負傷を予防するために筋肉を増やすヨガ授業を企画した理由だ。

受講生の授業満足度は高かった。しかし、同じ空間で運動しても、彼女ら同士で社会的関係が形成されにくかった。文化連帯のパク・イヒョン活動家は「ヨガ授業を聞きながらお互いに少しずつ笑いを交わすが、社会的関係が形成されるとは見難いのでチームスポーツをしなければならないという気がした」と話した。一方で「空を見ることができる運動」だったらと思った。清掃労働の特性上、腰を下げることが多いため、体を上に反らす運動が役に立ちそうだった。

真っ先に思い浮かんだ運動はバドミントンだった。だが、ラケット購入費用が侮れず保管問題があるうえに「テニス肘」のように良くない影響を及ぼしかねない。チームスポーツに近く、特別な準備物なしで参加できる運動を探していたところ、バレーボールが思い浮かんだ。

「受けて、上げて、打つ」バレーボールは協力が重要なスポーツだ。相手のサーブを受けて味方のFWが打てるように空に浮かべる。FWはそのボールを打って相手陣営に送る。規則は簡単だ。1チームの選手は最大3回までボールを打つことができる。その中で相手陣営にボールを渡さなければならない。しかし、1人の選手がボールを2回以上打つのは反則とみなす。このためサッカー・野球・バスケットボールなど他のチームスポーツ以上に選手たちの協力が重要だ。

ボールを当てた時の達成感、調和する楽しさ

団体の中でも果たして受講生が集まるのか半信半疑だった。しかし、パク・イヒョン活動家は「中年女性が大変なスポーツを嫌うだろうという考えが、私たちが先に（その方々に）線を引くのではないかと疑問に思った」と話した。そのように話したパク活動家も「集まらなければ他の運動をしよう」という気持ちだった。2023年1学期(1期)、2学期(2期)にそれぞれ清掃労働者約10人がバレーボール授業を申請し、大学生67人も一緒に授業を受けた。

"何というか、まるで童心に戻ったように楽しく体を使う運動をすると、縮こまる気持ちに自信もついて、もっと人が快活になるような気がしました"

チェ・ソンウンさんの顔はバレーボールの授業を受けている間、笑いが絶えなかった。彼女は2023年2学期から参加した。1学期の授業の時、同僚の李ヒャンランさんについて数回見物しに来た。「そんなに面白くなさそうだった」手首が弱くてボールを打つのが無理そうだった。だが、2学期の授業受講生を募集する時、李さんが「申請者が少なくて面白い授業がなくなったらどうしよう」と心配したため、人数を満たすために申請した。最初は体が痛かった。手首にあざもできた。「2回目の授業は行かないつもりだったが申し訳なくて行ったが、そのようにまた行ってみると面白さを感じるようになった。走りながら汗を流すと、体がとても軽くなる」(チェ・ソンウンさん)

氷点下の天気にもかかわらずコートの上を走り回って頬に薄い紅潮が消えないチョン・チャンホンさん(62)は、「最初は手が痛くてまともに当てられなかったが、今はうまく行ってとても楽しい。他の母親たちも面白いと言っている」と話した。前学期に授業を受けたチョン氏は今回の授業の優等生だ。パク・ミスクさん(58)も「先生の要求通りにボールをうまく当てた時に感じる達成感も大きく、大勢と一緒に

なっている運動の楽しさがあるようだ」と話した。3人とも「バレーボールの授業を受けた後、疲れるよりはエネルギーが生まれるようだ」と口をそろえた。周りの同僚にバレーボールを伝えるチョン氏は、「2024年上半期にバレーボールの授業が開かれれば、その時もまた申し込む」と話した。

「興味」と「負傷」はキム・ユンへ監督がホホ体育館でバレーボール授業を進行し、最も気にする要素だ。中高年層の柔軟性と瞬発力は若年層より落ちる。また、早朝から働いてきたため、体にたまった疲労も考慮しなければならない。金監督は「少なくとも負傷の心配がないように運動方式を考えて授業を準備する」として『今日それでも体が少し動いた』という感じで、ボールが自分の意志により自分が望む方向に行った時の面白さを感じさせようと努力している」と話した。

金監督は「本当に意外にもバレーボールが好きで、小さな喜びが途中で湧き出ると、私も気分が良い」として「私にとってもこの授業は面白くて新しい挑戦なので、むしろエネルギーをもらっていく」と話した。いつか指導者を引退すれば、専門指導者を必要とするところで、何度でもバレーボールを教えられると思っていた。彼女はホホ体育館の授業を契機に「私たちが働く女性たち、あるいは家にだけいた方々に私の才能寄付ができればこの上ない楽しみになるという気がする」と話した。

「キム・ヨンギョンより上手だったから そう思ってください」

この日の授業はサーブ練習とミニゲームで終わった。身長160cmにも満たない清掃労働者が打ったボールは時々ネットを越えることができなかつたりもした。パスボールは音から違っていた。まともに打ったボールは「タン」という音がして放物線を高く描きネットを越えた。隣でパク・イヒョン活動家が「ナイス!」と合いの手を入れた。キム監督は「この身長でこれくらいならキム・ヨンギョンより上手だよ。キム・ヨンギョンより上手だったので、そう思ってください」と話した。授業が終わって再び上着を着て出て行く受講生たちの顔は満足そうだった。

出展：https://h21.hani.co.kr/arti/society/society_general/54858.html

05 京郷新聞 2023. 12. 20

小学校1・2年の体育独立編成・・・「国民運動量」増やす



政府が初等学校1・2学年教科課程で「体育」を独立編成するなど各級学校でスポーツ活性化を推進する。国家代表選手と指導者に手当を支給するなど体育人処遇改善にも乗り出す。

政府は20日、政府ソウル庁舎でハン・ドクス首相主宰で第1回国家スポーツ政策委員会会議を開き、「第1回スポーツ振興基本計画(2024~2028年)」を発表した。スポーツ関連主要政策を審議・議決するスポーツ政策委は民官合同組織に改編され、民間委員長はイ・エリサ元泰陵選手村長、民間委員はホ・グヨン韓国野球委員会(KBO)総裁などが引き受けた。

基本計画は学校・生活・エリート・国際スポーツ・スポーツ産業など分野別政策を盛り込んだ。2028年までに国民の日常スポーツ参加率を70%まで引き上げ、スポーツ強国主要7カ国(G7)入りなどを目標にした。

日常スポーツ活動の支援が強化される。運動参加実績を土台にした年5万ウォン限度の現金性ポイント支給対象は今年1万人から2028年50万人に増える。

子供や会社員、老年層など、ライフサイクル別オーダーメイド型スポーツプログラムへの支援も拡大する。

障害者と非障害者が一緒に利用できる国民体育センター（バンダビ体育センター）も拡充する。

学校スポーツ活性化方案も推進される。 初等学校 1・2 年生の身体活動を増やし、初等学校で「体育」科目を独立編成する方針だ。 文化体育観光部のイ・ソングジュ体育振興課長は前日の事前ブリーフィングで「近いうちに教育部長官名義で国家教育委員会に(初等学校 1・2 学年体育教科分離を)提案する」とし「国交委審議を経て 2028 年から適用されるよう教育課程改編を審議する」と説明した。

2025 年から中学校スポーツクラブの活動時間は約 30%増える。 また、1 学校・1 種目の普及を拡大し、放課後スポーツ活動を強化する。 学校運動部の創立初期費用を支援し、経済的に困難な学生選手に対する奨学支援も規模を拡大する。

エリートスポーツの力量も強化していく。 幼少年スポーツ複合施設など優秀な選手を体系的に育成する訓練施設を構築するなど、国家代表育成システムを先進化する。 最近、主要国際大会で不振な球技種目では有望株の国外訓練、指導者先進訓練プログラムの開発などを推進する。

国家代表など体育人に対する経済的支援はきめ細かく行う。 練習に専念できるよう、国家代表選手と指導者などに手当てを支給する。 体育人福祉事業を専担する「体育人福祉財団」の設立を推進し、体育人共済事業、生活安定資金支援、傷害医療費支援を新たに施行する。 体育界の人権伸張のための「スポーツ人権ガイドライン」も用意する。

ゴルフの大衆化を図る政策も推進される。 ゴルフ場不足による過度な利用料問題を解消するため、地方自治体の遊休用地を活用した公共型ゴルフ場を 2027 年までに 30 ヲ所作る。

民間ゴルフ場建設許認可手続きを簡素化し、大衆型ゴルフ場建設融資限度を増やす。

出展：<https://www.khan.co.kr/politics/politics-general/article/202312202043005>

06 週間スポーツニュース

故オ・チャンソク元国家代表マラソン監督、大韓民国体育功労者指定

<https://www.edaily.co.kr/news/read?newsId=01528486635842456&mediaCodeNo=257&OutLnkChk=Y>

密陽市、来年の第 63 回慶南道民体育大会の開催日程を最終確定

https://www.newsis.com/view/?id=NISX20231226_0002570666&cID=10812&pID=10800

水原市小・中学校 5 校の体育館開放協約

<https://news.tf.co.kr/read/national/2063742.htm>

全北体育会、体育記念館造成祈願の遺物寄贈相次ぐ

<https://news.kbs.co.kr/news/pc/view/view.do?ncd=7850535&ref=A>

障害者生活体育指導者の賃金は上がるだろうか？

<https://www.kyeonggi.com/article/20231219580277>

京畿道体育会、冬季イベント「ソルレ(雪来)スキー教室」を開催

<https://www.kgnews.co.kr/news/article.html?no=775828>

慶尚北道体育会「2023 青少年スポーツハンマダン卓球大会」成功裏に終了

<https://www.kyongbuk.co.kr/news/articleView.html?idxno=2150862>

「生活体育に積極的に参加する高齢者」… 医療費削減効果最高

<https://news.kbs.co.kr/news/pc/view/view.do?ncd=7849195&ref=A>

国民体育振興公団、今年のスポーツ企業支援事業を成功裏にリード

<https://www.hankookilbo.com/News/Read/A2023122513580003024?did=NA>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>